

亀山八幡宮 社殿修復祝う



修復が終わった社殿

奉告祭に130人 巫女が舞を奉納

旧赤間関（下関市）の総氏神として親しまれてきた亀山八幡宮で20日、社殿の修復完成などを祝う「平成の大造営竣工奉告祭」が行われた。

八幡宮は859年（貞観元年）に創建。戦国大名・大内氏や長府毛利家などの庇護を受けてきた。1945年の下関空襲で被災し、58年に現在の社殿を再建。しかし、半世紀を超えて老朽化が進んだため、昨年7月から1年がかりで、屋根の銅板のふき替えや外壁改修、石畳の新設などを行った。総事業費約1億2000万円。各地の約3500人から集まった寄付を充てた。

奉告祭には、総代会の関係者約130人が出席。竹中恒彦宮司による祝詞奏上の後、巫女2人が「浦安の舞」を奉納した。続いて開かれた記念式典

で、竹中宮司は「たくさんで、次の時代へバトンタッチできることを喜んでい

ている。立派に造営ができる」と述べた。